

薬草園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2018年
6月18日
第44号

ウルシ (ウルシ科)

園内、資材倉庫の前に小花が見られます。この頃になると、樹皮に傷を付けて樹液を取る漆掻きが始まります。盆や椀、箸など、日本文化に根付いた漆塗りの漆は、この木の樹液を原料とします。この技術は、奈良時代にインド、中国から渡来しました。樹液を集めたものを生漆（きうるし）と云い、その含有成分ウルシオール（純物質ではなく混合物）は、空気により酸化重合すると粘性の高い黒色の液体となり、木工製品や紙に塗り重ねて漆器を作ります。また、ウルシの果実からは漆蠟（うるしろ）が採れ、ロウソクの原料にされます。生漆を乾燥したものは、乾漆（かんしつ）という生薬となり、民間薬として、駆虫、通経を目的に使用するほか、鎮咳や喉の炎症に対して燃やしたときの煙を吸ったりします。ウルシオールはヒトによっては接触性皮膚炎（かぶれ）を起こすため、アレルギー体質の人は注意が必要です。ちなみにマンゴー（温室にあります）もウルシ科で、果実を食してかぶれる人もいますので、注意が必要です。



マサキ (ニシキギ科)

カフェテリアから園を覗くとすぐに目にとまる、緑や黄色の美しい葉を持つ木です。今、緑白色の小花を付けています、立ち止まって見ては如何？冬には球形で黄赤色の仮種皮を持った種子を露出し、いかにもニシキギ科であることを主張します。

トチュウのように、枝を折ると糸をひことから、かつてマサキ樹皮を生薬の杜仲（トチュウの樹皮）の代用品である和杜仲（わとちゅう）として、利尿、強壮目的に利用していました。

マサキの葉は、中国では生薬名、大葉黄楊葉として、解毒、消腫を目的とした外用薬に用います。

今、こんな草木がたのしめます！

待ってま〜す！！